序文

医学の進歩は著しく，細胞診においても新たな疾患概念や診断基準が次々と提示され，知識と技術の更新は不可欠となっている．また，分子病理学の発展や治療選択の高度化により，細胞診に求められる役割は大きく変貌し，必要な情報に迅速かつ確実にアクセスできる実践的手引きの価値は一段と高まっている．

私はこれまでいくつかの細胞診関連書籍の作成に携わってきたが，本書では「ハンディであること」「使いやすいこと」「初学者にも理解しやすいこと」を徹底的に追求した．2008 年に上梓した前著『実用細胞診トレーニング』の形式を踏襲しつつ，この 20 年弱で変化した診断概念と実務を最新知見に基づき刷新し，日常診療で“即戦力”となるハンドブックとして再構成した．

本書は常に手元に置き，必要なとき即座に参照できる点で，従来の体系的教科書とは一線を画す．執筆陣には各分野のベテランに加え若手も参加し，病理医と細胞検査士がともに執筆することで，基礎から応用，実践的視点までを無理なく行き来できる構成とした．

さらに口腔領域や免疫細胞化学を新たに加え，章末には演習問題，随所にコラムを設け，読者の思考を深めることを意図した．掲載した鮮明な写真は視覚的理解を助け，細胞像の本質に迫る確かな基盤となるはずである．

本書の出版に尽力いただいた株式会社 Gakken メディカル事業部の宇喜多具家さんに深く感謝の意を表したい．本書が，細胞診に携わるすべての方々の日々の診療と学習を支え，より良い医療の実現に寄与することを願っている．

2026 年 4 月

清水 道生